



ゆめ

六年生のKちゃんが久しぶりに幼稚園に遊びに来た。

「ずいぶん背が伸びたみたい……」

と声をかけると、照れたように

笑った。笑顔は幼稚園の頃のままだ。

「せんせい、あのね、ちょっと相談

にのつてくれる？」

急に小学生の顔になって話し始め

るので、少しドキッとした。

相談というのは、体験学習についてだった。じぶんのテーマを決めて、そのテーマにそった実習場所を探すのだという。

彼女は、三つの実習場所のどこにするかで悩んでいた。

「お菓子ね、作るの好きなんだけど、和菓子つてやった

ことないの。やってみたいなあつておもつて……」

という理由で選んだのが、駅の近くの和菓子屋さん。

「大切な人に贈ったりする花束さあ、どうやつてきれい

に作るのかなあつて、前から興味があつたの」

という訳で、Kちゃん家の近所のお花屋さんも候補に

あがつた。そして三ヶ所目は幼稚園だった。小さい子の

面倒を上手にみるができる人だ。選んだ理由は聞か

なくても分かつた。

さて困つた。どこへ行つてもすてきな経験をしてくる

だろうと思つたのだ。和菓子屋さんで、お花屋さんで、

幼稚園で、生き生きと過ごすKちゃんの姿がちゃんと想

像できてしまつた。夢がしつかり未来につながつている。

実は、保育の中で大事にしていることをことばにする

ことが出来ず、もどかしい思

いでいたときだつた（相談を

受けていたのは……私？）。

好きなことに夢中になつて

遊んだ体験は、ちゃんと生き

る力につながつている。

（幼稚園勤務）

